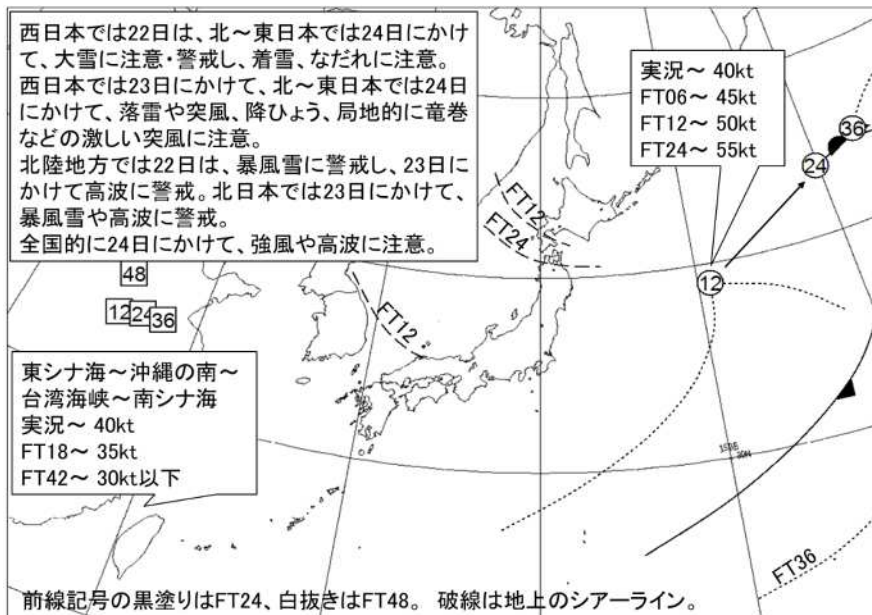


### 1. 実況上の着目点

- ① 日本海には500hPaで $-33^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。対応する低気圧が関東の東にあって、前線を伴い北東進。低気圧周辺や前線の近傍では、1時間20mm以上の強い雨を解析し、雷を多数検知。
- ② 日本海には地上のシアーラインがあって東北地方～北陸地方を指向している。地上のシアーライン周辺では、大気の状態が非常に不安定となっており、1時間10～20mm程度の雨量を解析。山陰地方～北陸地方の沿岸部では雷を多数検知。また、北陸地方ではメソサイクロンを検出。
- ③ 中国東北区付近には500hPa $-39^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気を伴った寒冷渦があって南東進。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、22日は急速に発達しながら日本の東を北東進し、23日は千島の東に進む。日本付近は、強い冬型の気圧配置となり寒気移流が強まる。北～東日本では500hPaで $-33^{\circ}\text{C}$ 以下、850hPa $-9^{\circ}\text{C}$ 以下、西日本でも850hPa $-6^{\circ}\text{C}$ 以下の強い寒気が流入し、大雪となる所がある。その後、24日は次第に冬型の気圧配置が緩むが、北～東日本では寒気の影響が残る。西日本では22日は、北～東日本では24日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪、なだれに注意。
- ② 24日にかけて2項①の寒気の影響を受ける中、22日は1項②の地上のシアーラインが日本海を南西進。また、1項③の寒冷渦に対応する別の地上のシアーラインが日本海北部で顕在化し、22日夜にかけて北日本を南下する。これらのシアーラインや上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。西日本では23日にかけて、北～東日本では24日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 日本付近は強い冬型の気圧配置となることに加え、2項①の低気圧や2項②の地上のシアーライン周辺では気圧の傾きが大きくなり、24日にかけて雪を伴った強い風や局地的に非常に強い風が吹いて、波が高くなり大しけとなる所がある。北陸地方では22日は、暴風雪に警戒し、23日にかけて高波に警戒。北日本は23日にかけて、暴風雪や高波に警戒。全国的に24日にかけて、強風や高波に注意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：東北・北陸・関東甲信70、東海60、北海道・近畿40、中国35cm。③ 波浪(明日まで)：東北6、北海道・北陸・伊豆諸島5、その他広い範囲で3～4m。

### 5. 全般気象情報発表の有無 「大雪に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。